



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学 里山学研究センター
2017年度 年次報告書

里山学研究
里山学から考える
防災・減災

— 琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて —

巻 頭 言

龍谷大学里山学研究センター センター長

牛尾 洋也

2017年11月、ドイツのボンで国際気候変動（COP23）ボン会議が開催された。

パリ協定の実施指針（ルールブック）の交渉の土台となる文書作成とともに、2018年の世界の気候変動対策の進捗状況のチェックを行う促進的対話（タラノワ対話）の進め方や2020年までの行動の引き上げのプロセスなどについて合意された*⁽¹⁾。アメリカのパリ協定からの離脱宣言にもかかわらず、世界は温室効果ガスの大幅削減に向けて待ったなしの対応を模索している。

これに対して、日本は、国内外で石炭火力発電を推進する方針を進めることで、世界から非難と言うより、嘲笑を浴びたといわれている*⁽²⁾。それほどまでに世界の脱炭素社会の動向は明白であり、事態は切迫しているといえる。すでに「ダイベストメント」の動きも活発化し、実際、議場の外のサイドイベント会場では、情報収集や投資先の調査、商談などパリ協定が生み出す巨大な脱炭素市場の争奪戦が繰り広げられているという。

こうした動きは、私たちの日常生活でも顕著に見られるようになってきた。2017年7月に、フランス政府が、パリ協定の目標達成に向けた目玉政策の一つとして、2040年までにガソリンやディーゼルエンジンを搭載した自動車の新車販売を終了させるという方針を出し、ヨーロッパ各国は瞬く間に、EV推進策を打ち出すことで、日本の自動車市場も対応が迫られている。環境をめぐる大きな世界的動向に対し、国家レベルの対応だけでなく、このような市場を介した目に見える動きが今後ますます広がれば、私たち一人ひとり、ますます個人として選択と決意が求められることになるだろう。

今年度の里山学研究センターは、広く市民や研究者、実務家に対し問いかけるべく、「里山学から考える防災・減災～琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて～」というシンポジウム（2018年3月3日）を行い、『琵琶湖水域圏の可能性—里山学からの展望—』（晃洋書房 2018年）という書籍を公刊した、今後も、世界的動向を注視しつつ一層の発展を目指したい。

* (1) 特定非営利活動法人気候ネットワーク「COP23ボン会議の結果と評価」(<http://www.kikonet.org>)

* (2) 中日新聞・社説「もはや環境途上国 ニッポンの大問題」〔2018年1月9日〕

目 次

巻頭言	牛尾洋也
目 次	
1. シンポジウム	
「里山学から考える防災・減災～琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて～」	
(1) プログラム	3
(2) 里山学から考える防災・減災—琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて— (ダイジェスト)	5
2. 研究会報告 研究会リスト	
(1) 特別研究会	
1) 日本民法によって捉えられるべき共同体的所有 —近代民法における「共有（広義）の諸形態」理論のパースペクティブに關説して—	池田恒男…………… 15
2) 「森のある大学」の里山学—「龍谷の森」の過去と未来—	丸山徳次…………… 16
(2) 第1回研究会	
地理情報システム（GIS）による『滋賀県物産誌』の視覚化 —明治初期の滋賀県における産業と自然の様相—	林 珠乃…………… 17
(3) 第1回全体会	
里湖（さとうみ）を包摂する里山学の展開	丸山徳次…………… 18
(4) 第2回研究会	
カンボジアにおける野蚕エリサン養蚕事業 —持続可能な開発に向けた企業の取り組み—	田井中慎…………… 19
(5) 叢書合宿研究会	
叢書合宿研究会報告	吉岡祥充…………… 20
(6) 第3回研究会	
1) マラウイ湖国立公園の森林資源の利用と保全	林 珠乃…………… 21
2) アフリカの里山 —森林資源の利用と保全のバランス（植生調査報告）—	太田真人…………… 23
(7) 第4回研究会	
1) 中国の集団林権制度改革の政策課題に関する研究	劉 璨…………… 24
2) 中国の林業財政投資政策に関する研究	劉 浩…………… 25
(8) 第5回研究会	
シンポジウム 「里山学から考える防災・減災～琵琶湖水域圏の保全・再生～」に向けた事前研究会	清水万由子…………… 26
(9) 森林所有権制度研究会（共催研究会）	
入会権をめぐる判例・学説の法学的検討「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の 検討状況について	高村学人・西脇秀一郎 古積健三郎…………… 27

3. 研究活動報告

- (1) 日中森林政策研究ワークショップ「日中森林資源総合利用と政策」の開催
吉岡祥充・金 紅実・池田恒男
谷垣岳人・高桑 進・張 志涛
呉 偉光・呉 ウ松・謝 屹
渠 美・劉 浩・張 婷婷…………… 33
- (2) 中国広西壮族自治区の森林総合利用に関する実態調査報告
吉岡祥充・金 紅実・池田恒男
谷垣岳人・高桑 進…………… 74
- (3) マラウイ湖国立公園での森林資源の利用と保全に関する調査
林 珠乃・太田真人・遊磨正秀
丸山 敦…………… 82
- (4) 「龍谷の森」里山保全の会の活動報告
林 珠乃・宮浦富保・谷垣岳人…………… 93
- (5) GISを活用した「滋賀県物産誌」の解析
林 珠乃…………… 95
- (6) 南大萱の小字についての聞き取り調査
林 珠乃…………… 100
- (7) 愛知川沿岸土地改良区ヒアリング調査及び現地視察
太田真人…………… 120
- (8) 蔵元 藤居本家ヒアリング調査報告
太田真人・田中 滋
高桑 進・林 珠乃…………… 133
- (9) 韓国調査団の訪問報告
丸山徳次…………… 140
- (10) 里山学と法律実務家のかかわり
一京都弁護士会公害・環境委員会（自然保護部会）
第70期選択的実務修習（環境問題体験コース）の実施一 西脇秀一郎…………… 142
- (11) 龍谷講座×里山学研究センター
シリーズ「伏見のいきものを知る」の実施報告
谷垣岳人…………… 146
- (12) フットパスを活かした地域づくり活動調査
牛尾洋也・本田大輝・山本英樹・
由良康太・米住京子・井上優大・
中田景子・安田奈於・湯川 希・
齋藤菜乃子・澤村奈叶・鈴木彩有里
中原広貴・野間元綺・吹野僚平…………… 151
- (13) 褐鉄鉱触媒等による薪ストーブ燃焼ガス中CO、HC濃度の低減に関する基礎的研究
占部武生・水原詞治…………… 178
- (14) 薪ストーブ燃焼ガス中未燃ガス（一酸化炭素、炭化水素）の褐鉄鉱触媒による
完全燃焼化実験一前加熱温度の影響一
占部武生・水原詞治…………… 187
- (15) 魚類の環境DNAメタバーコーディングにおける採水方法と
検出種数の関係についての検討
山中裕樹…………… 194
- (16) 里地・里川におけるホタル類の生息環境
一愛知川流域および瀬田丘陵における予備調査一
遊磨正秀…………… 199
- (17) 2017年度里山を活用した環境教育活動報告
高桑 進…………… 202

(18) 子どもたちと生きものを調べ、環境の現状と変化を知る —城陽生きもの調査隊の20年—	好廣眞一・田中昭夫・竹内 康・ 久田晴生・上田員也・田部富男・ 奥田奈々美・平賀美和子……………	203
(19) その他研究業績一覧 ……………		217
4. 研究論文		
(1) 近江国野洲郡の条里と荘園	中川晃成……………	225
(2) 「龍谷の森」における細根動態の長期観測	仲畑 了・大澤 晃……………	244
(3) 琵琶湖流域における人と水のかかわり—環境社会学から考える—	浅海一暉・井上滉平・大下智輝 金本さくら・川端日菜々・河野拓海 小松右詩・清水莉子・辻井宏佑 外山由利菜・濱田直幸・藤本 和 松崎里歩・松元彰汰・横山智恵 清水万由子……………	256
5. 活動日誌……………		275
(1) 運営会議		
(2) 全体会議		
(3) 研究会		
(4) シンポジウム		



1. シンポジウム

「里山学から考える防災・減災

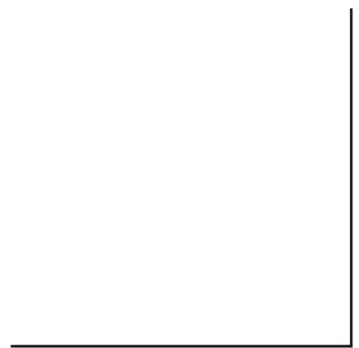
～琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて～」



■ 2. 研究会報告



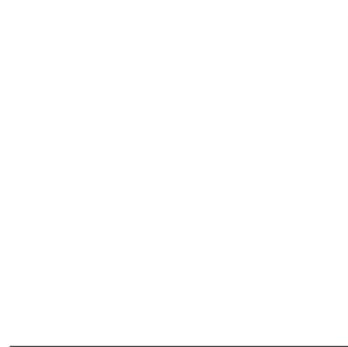
■ 3. 研究活動報告



■ 4. 研究論文



■ 5. 活動日誌



里山学研究
里山学から考える防災・減災
—琵琶湖水域圏の保全・再生に向けて—

龍谷大学 里山学研究センター
2017年度 年次報告書

2018（平成30）年3月 発行

（編集・発行） 龍谷大学 里山学研究センター
（代表者 センター長 牛尾洋也）
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL：075-645-2154 FAX：075-645-2240
<http://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>

（印刷） 河北印刷 株式会社
〒601-8461 京都市南区唐橋門脇28
TEL：075-691-5121



龍谷大学 里山学研究センター
2018年3月

<http://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>